

公益社団法人いわき青年会議所 2017年度 理事長総括

2016年度基本方針に沿って総括する。

【知識と意識が伴った人財による力強い組織の確立】

組織とは同じ目的を持った個人の集合体であり、その組織が掲げる目的が組織を構成するメンバー全てに伝わって初めて組織としての体を成すものだと考えます。私たちは諸会議におけるセレモニーの中で必ず理念や使命を唱和し、JCという世界的な組織が持つ目的と使命を共有し、その会が行う活動への意欲を高めようと努めていますが、その意欲を本年度劇的に高めることが出来たとは考えられません。その理由としては、新入会員として入会した際や、新たに理事として役割を負う際のセミナー等では組織が掲げる目的や使命について学び、共有を図りますが、その対象者以外には共有を図る場を提供できていない事が要因として考えられます。次年度以降は会として会員のために新たに学びの場を提供するか、もしくは、その様な事を学んだ会員がそれぞれの口から伝えて行って欲しいと願います。

また、組織の力を十分に発揮するためには組織を構成するメンバーは多い方が望ましく、40歳で卒業というルールを作るJCは常に新しい青年の入会を望み、その青年の成長の機会を提供し続けて参らなければなりません。本年度は卒業生として輩出する以上の数の入会を得る事が出来たことは、会としても、また、入会している会員及び入会した会員にとっても良い結果に繋がったものと思います。その様な良い結果をもたらすことが出来た理由としては、会の掲げる考えを正しく理解し、自分たちが行う活動に誇りを持って広く発信する事が大事であると思います。次年度以降も自分たちの行う活動が社会にとって、また、市民にとって必要なものとし、誇りを持って活動を続けることが出来れば、同じ結果を得られるものと思いますので、継続して可能性を持つ青年たちへ成長の機会を与える活動を行って欲しいと願います。

【文化・特性を活かした魅力ある地域の再興】

いわきの文化＝フラと位置付けた運動を前年より引き継ぎ活動を行いました。いわきの文化を確立させるためには、市民がその文化に触れる機会を提供し、緩やかに市民に定着を図る必要があるため、いわきオハナフラを作成し、市内の学校を始めとして、さまざまな場所で発信いたしました。この活動はいわき市民へ故郷の文化を「押し付ける」形で行いましたが、今後はいわき市民自らがこの文化として定着を図りたいものを受け入れ、自らの力で内外へ伝播出来るようにいわき青年会議所はその市民が自ら活動しやすい様な支援へと推移して行い、市民自らが自身の故郷を愛する事を促して欲しいと願っております。

また、震災後始まったいわき市民と震災で避難を余儀なくされた方との共生を促す運動

やまちに元気を取り戻すため、中心市街地の活性化に取り組む運動にも本年度は継続して取り組んでまいりました。本年度大切にしたことは、現状から導き出される未来予測、その客観的な数値に基づく未来を会員や市民と共有を図ること。観念的なまちづくりや楽観的なまちづくりでは無い青年の運動を考えてみたいと思いました。市民の方を招いての公開事業や、自分たちのこれまでの活動を振り返る事業などを行いましたが、この様な取り組みは定期的に行い、自分たちの行う活動を振り返って欲しいと考えております。

そして被災地の復興を目指して浜通りの青年会議所が協働で行ってきたいわき光のさくらまつりも例年通り開催する事ができました。共催の（一社）浪江青年会議所は来年以降、自分たちの活動エリアで同様の事業を開催に向けて動いて行きたいとの考えを持っていただくまでになりました。それは浪江という場所の未来を考えれば大変うれしいことです。共に活動する仲間の新しい一歩を応援する活動にも力を使っていたきたいと願っております。

【多様な個性が共感を広げる次世代社会の構築】

私たちは先祖代々つづいてきた営みをより良い形で次に繋いでいかなければなりません。繋がれたバトンを次に繋ぐためには、未来はどのような形が良いのかをJCだけではなく、多くの方と同じビジョンを描いて、そのビジョンに向かって一緒に行動する事が望ましいと思います。本年はその様な考えから、医療問題については多くの他の団体と一緒に実行委員会を組み、問題の解決に向けての一歩を踏み出すことが出来ました。この手法は今後も他の運動でも使える手法であると思いますし、本当に大切なことは誰が事業を行うのかは市民にとっては問題ではないということだと認識をすることだと思います。是非とも市民のためには、まちの問題の解決にとっては何が望ましいかを第一に考え続けて欲しいと願います。

また、次世代をどのような方に引き継がせるか。この問題にも継続して取り組む必要があります。私たちは時代を牽引する若きリーダーの集合体を標榜する団体です。その様な団体である以上は次の故郷を担う子ども達の育成にも取り組んでいくことは重要です。次代のリーダーに求められるものは、今よりも厳しい社会環境にあっても、故郷を愛し、人に優しく自分に厳しい人であると思います。その様なリーダーの育成のために甘やかさず、人としての正しさを事業を通じて次代のリーダー達へ伝え続けて欲しいと思います。

これからの社会は私たちの想像を超えたスピードで進むものだと思いますが、人間の本質的な部分は変わることが無いと信じております。人として社会に関わっていくために、社会を構成する一員である事の自覚と、社会がその様な全ての構成する方を受け入れられる器としての機能を両立するために、JCは両方に働きかけを行って欲しいと思います。

【伝統と挑戦が調和する進化した組織運営】

青年会議所の運営は不連続の連続と言われるが、不連続という言葉に甘んじて当該年度の運営を怠ることは、会が行う運動の力を削ぐだけでなく、会のブランドを下げることに繋がりかねません。本年度は運営を担っていただく事務局へ経験者を多く配置することが出来た上で運営を行えたことは理事長の精神的な負担の軽減にも繋がりました。これは本年度だけで叶えられた効果ではなく、継続して会の運営を正しく行っていこうとしてきた前年度以前の組織の賜物であると感謝しております。本年度もその考えを踏襲し、これまで同様に次に繋がるように組織を作り運営を行いました。次年度以降もその様な考えを引き継ぎL O Mの運営を行って欲しいと思います。そのためには青年会議所とは何をする団体であるのか、また、公益法人をとっている理由はなぜなのかを常に考えることを怠らないで欲しいと思います。そして何故運営にこそ力を入れるべきなのかを考えることを怠れなければ常に正しい運営は行えると思います。

【最後に】

私は自身の所信の最後に「一步を踏み出せる人間は次の一步も踏み出せる」と書きました。これはある登山家の言葉です。その方は登攀中に滑落し、山で亡くなりました。その人を笑う人がいます。山になんか、高いところを目指さなければ死ぬこともないだろうと言う人がいます。確かにそうだと思います。今いるところに留まり、今の自分に満足すればそれも良いと思います。ですが、私はまだ見ぬ世界を見てみたいと思い、今よりも高い場所を目指して失敗した彼を笑うことができません。成長するためには今の安全な場所から離れなければならない、今の安寧を捨ててチャレンジしなければならない。成長とはリスクを伴うものだとして理解し、それを選べる勇気が必要だと思わなければならない。J Cをやらなければ、自分の時間もお金ももっと自由に使えると思います。もっと趣味や娯楽を楽しめると思います。でもそれを知りながらも私たちは、リスクを承知でJ Cで一步を踏み出すことを選んだはずです。世のため人のために尽くすことこそが、自分自身の成長に繋がると信じて、自分で一步を踏み出したはずです。

みんなはもうすでに一步を踏み出しています。私たちは、言葉に出さなくてももう理解しているはずです。踏み出した一步の先にできる道がどこに向かうのか、その時、自分自身はどうなっていたいのか。そのことを考えてそれぞれの道を選んで下さい。

皆さんが踏み出した一步が長く続くよう、明るい未来へと繋がっている様に心から願っております。